



報告:有楽斎

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。

(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

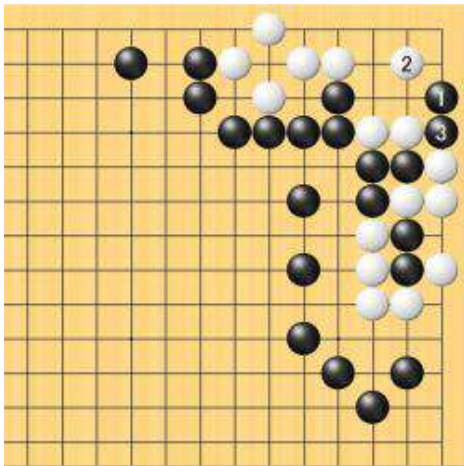
今号でも 直観力とヨミの精度を鍛える詰碁問題をご案内したいと思います。

(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

手筋問題 攻防の手筋と攻め合いの手筋。読み抜く力をつける 白と黒の石が切り結んでいるとき、その要の石を含む一団を取るか取られるかは、勝敗を決しかねない大きな問題です。ここではそんな中盤の攻防、攻め合いに強くなるための手筋問題を6題ほど用意しました。最初の3問は、切り結んだお互いの石が取るか取られるかの攻防、後半の3問は相手の死活が絡む攻め合いの問題です。

前号からの続きです

手筋問題 3 正解



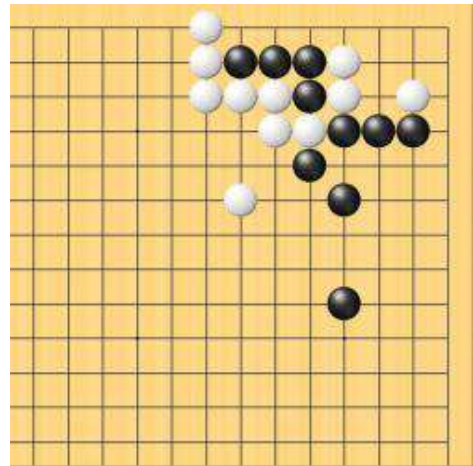
黒1がこの場合の急所で、白2には黒3のキリ。右辺の白3子のアタリと種石の2子取りが見合いになっています。

白2で3のツギは、単純に三々の地点に出て、このあと白はどうやっ

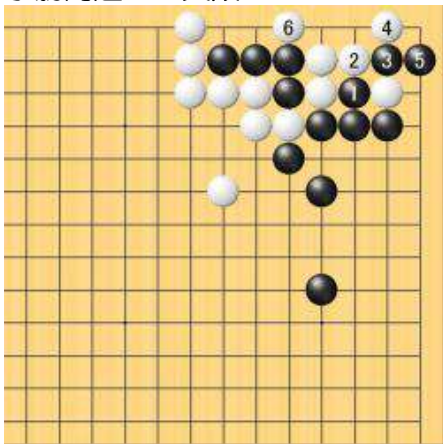
てもうまくいきません。

手筋問題 4 黒番

攻め合い 隅の白を取ってください。

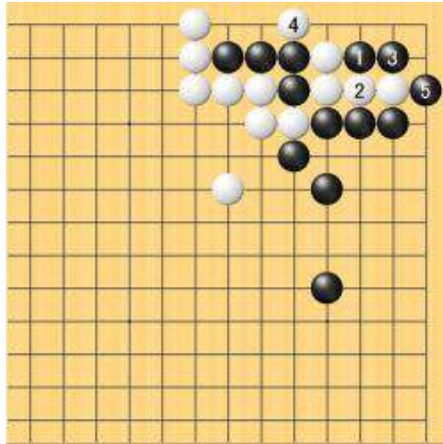


手筋問題 4 失敗



黒1から単純に出切るのは、白4のアテから6まで。黒はどちらから打つのもダメツマリで、白を取るのに3手かかります。

手筋問題 4 正解



黒1、3が白の手数を縮める唯一の手で、黒5まで攻め合い勝ちです。

白4では5のサガリが心配ですが、それには黒は5の上からダメを詰めて、あら不思議。隅と辺の黒3子のダメは3個なのに対して、隅の白のダメ2個はこれ以上伸びません。